所属：高知工業高等専門学校　ソーシャルデザイン工学

研究タイトル：

戦後沖縄文学における「混血」をめぐる表象についての研究

氏名：	藤本　秀平　／　FUJIMOTO Shuhei	E-mail：	fujimoto@kochi-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士（学術）
所属学会・協会：	日本社会文学会、日本近代文学会		

キーワード：	沖縄文学、混血、表象、日本近現代文学、比較文学、ジェンダー、セクシュアリティ
技術相談 提供可能技術：	・戦後日本文学について ・沖縄文学について ・文学や映像における「混血」をめぐる表象について

研究内容：

■研究概要

戦後の沖縄文学における「混血児」表象について、作品の収集と分析を行っている。

1） 呼称の変遷を辿る

「混血児」という言葉と、その表現やイメージは、時代毎に異なっており、「あいのこ」→「混血児」→「ハーフ」、「ダブル」、「国際児」、「アメラジアン」、「マルチカルチュラル」など多岐に渡る。こうした呼称が、どのように使われているのか、使われなくなるのか、あるいはどのような時期に社会で多用されるのか分析する。

2）認識の変遷を辿る

「混血（児）」とは、日本・沖縄において、どのような認識対象を指すのか。それらの領域間において、認識はどのように影響し合っているのか、時代によってどのように変遷するのかについて分析する。また、国や地域・時代によって、「混血児」の父親と母親の認識のされ方、表象に差異はあるのかについても分析する。例えば、沖縄を例にすると、戦後直後は、旧「大日本帝国」の植民地における母・日本兵の父という設定が特徴の1つとなるが、その後は、米軍所属の父、占領軍関係の仕事をしている母という設定になり、時代が下っていくと、東アジア圏の母と沖縄の父、といった組み合わせの設定による作品が描かれるようになる。こうした点を踏まえ、歴史的・社会的文脈を踏まえ、表象という観点から「混血児」について論及することを研究方針とする。

3）テクストを分析する

1、2の観点を踏まえ、文学作品における「混血児」の描かれ方を批判的に研究する。

■研究方法

1）新聞記事、雑誌記事、研究論文、「実態調査」といった資料、あるいは、法律や、社会学、人類学、歴史学における「混血児」への記述も論及の対象としており、対象を分析するなかで必要な領域を参照しながら、横断的に分析を行っている。

2）日本、特に、沖縄に関しては、米国（米軍）という観点を抜きに分析を行うことは不可能であるため、米国の占領史や、レイシズムについても踏まえた研究を行っている。

■研究成果

「大城立裕『一号線』から「非琉球人」管理をめぐる法の条線を読み辿る」、藤本秀平、『Quadrante：クァドランテ』第 21 号、東京外国語大学海外事情研究所、2019 年 3 月、pp.87-93。「利根川裕『喜屋武マリーの青春』からみる「戦後」沖縄における「混血」イメージの変容とアメリカ」、藤本秀平、『九州

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	
なし	